

新国立劇場 開場20周年記念公演
 新国立劇場 2017/2018 シーズンオペラ
 ジャコモ・プッチーニ

トスカ

Tosca

2018年7月1日(日)~15日(日) 会場:新国立劇場オペラパレス
 7月21日(土)・22日(日) 会場:びわ湖ホール大ホール



歌に生き、恋に生きた歌姫トスカの愛と悲劇

ローマを舞台に、運命に翻弄される歌姫トスカと画家カヴァラドッシの愛と悲劇を、プッチーニが甘美な旋律と劇的なオーケストラで描いた傑作オペラ。荘厳華麗なマダウ＝ディアツ演出は、新国立劇場でも『アイダ』と並ぶ人気を誇る名舞台です。世界的大ソプラノのネーグルスタッドが当たり役のトスカ役で新国立劇場初登場。俊英ロレンツォ・ヴィオッティの指揮にも注目です。

新国立劇場オペラを関西のお客様へ。びわ湖ホールと提携公演。

本公演は、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールと提携して上演。新国立劇場での上演後、同じキャストでびわ湖ホールでも上演します。また、びわ湖ホール声楽アンサンブルが新国立劇場合唱団とともに新国立劇場、びわ湖ホール双方の公演に出演します。新国立劇場オペラの全国公演は、普及公演以外では、2003年オーバード・ホール(富山市)での『フィガロの結婚』以来、実に15年ぶりの機会となります。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨 木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709 E-Mail:takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

ジャコモ・プッチーニ **トスカ**

全 3 幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初演：1900 年 1 月 14 日／コスタンツィ劇場（ローマ）

作曲：ジャコモ・プッチーニ 原作：ヴィクトリアン・サルドウ 台本：ジュゼッペ・ジャコーザ、ルイーダ・イヅリカ

歌に生き、恋に生きた歌姫トスカの愛と悲劇

政情不安に揺れる 19 世紀ローマを舞台に、運命に翻弄される情熱的な歌姫トスカと画家カヴァラドッシの愛と悲劇を、プッチーニが甘美な旋律と劇的なオーケストラで描いた傑作オペラ。「妙なる調和」「歌に生き、恋に生き」「星は光りぬ」など、ガラコンサートなどでも取り上げられる数々の名アリアに乗せて、スリリングな愛憎劇が展開します。荘厳華麗なマダウ＝ディアツ演出は、新国立劇場でも『アイダ』と並ぶ人気を誇る名舞台上、緻密な描写で愛と欲望、追い詰められ死に瀕する極限のドラマを描きます。中でも 1 幕フィナーレの「テ・デウム」は、音楽のダイナミクスに乗せて視覚的にも壮麗な礼拝堂へと舞台装置が展開、次第に高まる人々の祈りの合唱を背景に究極の悪役・スカルピアが欲望を吐露する、圧巻の名場面。オペラの醍醐味を存分に味わえる決定的瞬間が、観客の心を鷲掴みにします。

世界的トスカ歌い・ネーグルスタッドをはじめ豪華キャストが出演

トスカ役に迎えるのは、世界的大ソプラノのネーグルスタッド。トスカはウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラなどで披露している当たり役です。カヴァラドッシは伸び盛りの若手テノールで、張りのある声と丁寧な歌唱で前回公演でも大好評を博したデ・レオン。スカルピアは、イタリアの新世代のバリトンとして注目を集めるスグーラ。指揮は俊英ロレンツォ・ヴィオッティが務めます。ヴィオッティは 50 歳で急逝したイタリアの名指揮者マルチェロ・ヴィオッティの息子であり、新国立劇場が 2000/2001 シーズン開幕公演として『トスカ』を初めて上演した際は、故マルチェロ・ヴィオッティが指揮を務めました。

新国立劇場オペラを関西のお客様へ。びわ湖ホールと提携公演。

本公演は、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールと提携して上演、新国立劇場での上演後、同じキャストでびわ湖ホールでも上演します。また、びわ湖ホール声楽アンサンブルが新国立劇場合唱団とともに新国立劇場、びわ湖ホール双方の公演に出演します。新国立劇場オペラの全国公演は、普及公演（高校生のためのオペラ鑑賞教室、こどものためのオペラ劇場）以外では、2003 年オーバード・ホール（富山市）での『フィガロの結婚』以来、実に 15 年ぶりの機会となります。新国立劇場は、日本唯一の現代舞台芸術のための国立の劇場として、新国立劇場で創造するオペラを各地の劇場と連携して上演することで舞台芸術を普及し、同時に地域の活性化にも貢献することを目指しています。

◆『トスカ』あらすじ

【第 1 幕】旧王制派の警視総監スカルピアの恐怖政治下の 1800 年 6 月 17 日のローマ。共和派で画家のカヴァラドッシが教会でマリア像を描いていると、アンジェロッティが脱獄して逃げてくる。カヴァラドッシは再会を喜ぶが、恋人のトスカが来るので、慌てて彼を礼拝堂に隠す。トスカは描きかけのマリア像が侯爵夫人にそっくりだと嫉妬するが、カヴァラドッシになだめられ教会を去る。彼らが隠れ家に向った後、スカルピアが教会にやってくる。脱獄犯をかかまった証拠をつかんだスカルピアは、嫉妬深いトスカを利用して二人の行方を突きとめようとする。

【第 2 幕】スカルピアの執務室にカヴァラドッシが連行される。アンジェロッティの居場所を白状しない彼は、拷問部屋へ連れていかれる。トスカは拷問を受ける彼のうめき声を聞き、アンジェロッティの居場所を告白してしまう。カヴァラドッシを助けてほしいとトスカが懇願すると、スカルピアは代わりにトスカ自身を要求。トスカは泣く泣く受け入れる。スカルピアは、形だけの死刑執行をするため、空砲で銃殺刑を行うと約束する。納得したトスカは出国のための通行証書を要求。書き終えたスカルピアがトスカを抱こうとしたとき、「これがトスカの口づけよ」とトスカはスカルピアを刺し、部屋を去る。

【第 3 幕】牢獄のカヴァラドッシのもとをトスカが訪れ、スカルピアを殺したこと、刑は見せかけであることを説明。死刑執行のときを迎える。銃声が鳴り響き、地面に崩れ落ちるカヴァラドッシ。トスカが駆け寄ると、彼は命尽きていた。そのときスカルピア殺害も発覚。追い詰められたトスカは、聖アンジェロ城から身を投げる。

報道用資料

＜主要キャスト・スタッフプロフィール＞

【指揮】ロレンツォ・ヴィオッティ

Conductor: Lorenzo VIOTTI

ローザンヌ出身。早逝したイタリアの名指揮者マルチェロ・ヴィオッティとフランス人の母親との間に生まれ、リヨン、ウィーンで声楽、ピアノ、打楽器を学ぶ。オーケストラで打楽器を演奏しながら研鑽を積み、ワイマールのフランツ・リスト音楽院で指揮を修める。2015年に25歳でザルツブルク音楽祭ネスレ・ヤング・コンダクター賞を受賞し注目を集める。13年、22歳でカダケス国際コンクール及びライプツィヒMDRコンクールに優勝し、以後BBCフィルハーモニック、ロイヤル・リヴァプール管弦楽団、バンベルク交響楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ミュンヘン放送交響楽団、東京交響楽団、大阪交響楽団などに出演。16年にはロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ヴェルビエ音楽祭にいずれも急遽登場し、ザルツブルク音楽祭にはウィーン放送交響楽団を指揮してデビュー、17年にも登場した。オペラでは15年パリ・シャトレ座『美しきエレヌ』で成功を収め、同年フェニーチェ歌劇場『結婚手形』、クラーゲンフルト歌劇場『カルメン』、16年シュトゥットガルト歌劇場『リゴレット』、17年ザクセン州立歌劇場『リゴレット』、リヨン歌劇場『ヴィヴァ・ラ・マンマ』(ドニゼッティ)、クラーゲンフルト歌劇場およびフランクフルト歌劇場で『ウェルテル』を指揮。今後の予定にチューリヒ歌劇場『ウェルテル』、ハンブルク歌劇場およびパリ・オペラ座『カルメン』などがある。17年International Opera Awards 新人賞受賞。18/19シーズンからポルトガル・グルベンキアン管弦楽団音楽監督に就任予定。新国立劇場初登場。



【演出】アントネッロ・マダウ＝ディアツ

Production: Antonello MADAU-DIAZ

イタリア・ペルージャ生まれ。フィレンツェで舞台技術と演出を学び、ヴィスコンティ、ゼツフィレツリなど世界第一級の演出家のもとで研鑽を積む。1956年ジェノヴァ市立歌劇場の『ヘンゼルとグレーテル』でオペラ演出家デビュー。以来、ミラノ、ローマなどイタリア各地をはじめ、スペイン、フランス、アメリカなど世界各地の歌劇場で200本以上の演出を手がけ、オペラ専門の演出家として活躍。いずれもイタリアオペラの伝統を踏まえた手堅い演出で評価を得ている。58年から91年までミラノ・スカラ座に所属し、演出部長、制作部長を務めた。新国立劇場では、98年に『ナブッコ』、2000年には『トスカ』の演出を手掛けた。『トスカ』は緻密な舞台づくりと豪華な舞台装置で、新国立劇場屈指の人気レパートリーとなっている。2015年8月逝去。



【トスカ】キャサリン・ネーグルスタッド

Tosca : Catherine NAGLESTAD

アメリカ出身。2006年にドイツ芸術省より宮廷歌手の称号を授与される。同年Opernwelt誌最優秀女声歌手に選出。トスカ役はウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、チューリヒ歌劇場、英国ロイヤルオペラなどで演じ、ダラス・オペラ・マリア・カラス新人賞を獲得した得意役。他の主なレパートリーに『サロメ』タイトルロール、『蝶々夫人』タイトルロール、『仮面舞踏会』アメリア、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『運命の力』レオノーラなどがあり、最近では『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『ワルキューレ』ジークリンデ、『ジークフリート』ブリュンヒルデ、『ローエングリン』エルザなどのワーグナー作品でバイエルン州立歌劇場、オランダ国立オペラ、マドリッド王立劇場に出演している。最近の主な出演には、バイエルン州立歌劇場でシュレーカー『烙印を押された人々』カルロッタ、チューリヒ歌劇場で『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントゥツァ、ハンブルク州立歌劇場『トロイアの人々』カッサンドラ、ベルリン・ドイツ・オペラおよびチューリヒ歌劇場『サロメ』、リール歌劇場『さまよえるオランダ人』ゼンタ、ベルリン・ドイツ・オペラ『トスカ』タイトルロールなどがある。新国立劇場初登場。



【カヴァラドッシ】ホルヘ・デ・レオン

Cavaradossi : Jorge de LEÓN

カナリア諸島サンタ・クルス・デ・テネリフェ生まれ。2010年にマドリッド王立歌劇場で成功を収めた後、ミラノ・スカラ座『アイダ』ラダメスおよび『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドウ、パレルモ・マッシモ劇場『カルメン』ドン・ホセおよび『アイダ』ラダメス、ナポリ・サンカルロ歌劇場およびヴェローナ音楽祭およびマドリッド王立歌劇場『トスカ』、ヴァレンシア歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』『トスカ』『アイダ』『イル・トロヴァトーレ』、バルセロナ・リセウ大劇場『蝶々夫人』『トスカ』などに出演。ウィーン、ベルリン、ミュンヘンへも『トスカ』『蝶々夫人』『アイダ』でデビューし、シカゴ・リリック・オペラに『トスカ』でデビュー。16/17シーズンにはベルリン・ドイツ・オペラのシーズン開幕公演『仮面舞踏会』リッカルド、『アイダ』ラダメスでメトロポリタン歌劇場デビュー、ウィーン国立歌劇場の新制作『マクベス』、ベルリン・ドイツ・オペラ『トスカ』などに出演。今シーズンはベルリン・ドイツ・オペラ『アイダ』『トスカ』、オビエド歌劇場およびバルセロナ・リセウ大劇場『アンドレア・シェニエ』、トリノ王立歌劇場『トゥーランドット』、ハンブルク歌劇場『トスカ』、ウィーン国立歌劇場『アイダ』などに出演している。新国立劇場では15年にも『トスカ』カヴァラドッシに出演した。



【スカルピア】クラウディオ・スグーラ

Scarpia: Claudio SGURA

2007年、ミラノ・スカラ座に『蝶々夫人』シャープレスでデビュー。スカラ座にはその後『カヴァレリア・ルスティカーナ』『西部の娘』にも出演。『トスカ』スカルピア、『西部の娘』ジャック・ランス、『オテロ』イアーゴ、『アッティラ』エツィオ、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『蝶々夫人』シャープレス、『アイダ』アモナズロ、『マクベス』タイトルロール、『ルチア』エンリーコ、『椿姫』ジェルモンなどで、英国ロイヤルオペラ、チューリヒ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ウィーン国立歌劇場、トリノ王立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座などに出演。最近ではブレゲンツ音楽祭にファッチョ作曲『アムレット』、ハンブルク州立歌劇場『西部の娘』、韓国国立オペラ『トスカ』、トリノ王立歌劇場『サムソンとデリラ』ダゴンの大神官、ハンブルク州立歌劇場『オテロ』イアーゴ、モデナ、ピアチェンツァ、レッジョ・エミリアで『ワリー』ゲルトナー、サンカルロ歌劇場『ルチア』エンリーコ、ノルウェー国立オペラ『トスカ』スカルピアなどに出演。今シーズンはハンブルク州立歌劇場『シモン・ボッカネグラ』タイトルロール、ナポリ・サンカルロ歌劇場『西部の娘』ジャック・ランス、スウェーデン王立歌劇場およびヴァレンシア歌劇場で『トスカ』スカルピア、バーリ・ペトルツィ歌劇場『アンドレア・シェニエ』タイトルロールに出演している。新国立劇場初登場。



びわ湖ホール声楽アンサンブル

BIWAKO HALL Vocal Ensemble

監修:沼尻竜典(びわ湖ホール芸術監督) 名誉指揮者:田中信昭 桂冠指揮者:本山秀毅 指揮者:大川修司

びわ湖ホール独自の創造活動の核としてびわ湖ホール開館の年の1998年3月に設立。ソリストとしての高水準の実力だけでなく、アンサンブル、合唱の中核となり得るバランスのとれた声楽家により構成されている。びわ湖ホール自主公演への出演を主な活動とする一方、音楽の普及活動も積極的に行っており、日本初の公共ホール専属声楽家集団として各方面から注目を集めている。過去在籍したメンバーは総勢50名を超え、活動期間を終了した後は「ソロ登録メンバー」として、多数のコンサートやオペラに出演するなど幅広く活躍している。2013年第26回大津市文化賞、2017年第42回滋賀県文化賞受賞。



ジャコモ・プッチーニ トスカ

全 3 幕〈イタリア語上演／字幕付〉

【公演日程】 2018 年 7 月 1 日(日)14:00／ 4 日(水)19:00／ 8 日(日)14:00／
12 日(木)14:00／15 日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】 S:23,760 円 ・ A:19,440 円 ・ B:12,960 円 ・ C:7,560 円 ・ D:4,320 円 ・ Z:1,620 円

指揮	ロレンツォ・ヴィオッティ
Conductor	Lorenzo VIOTTI
演出	アントネッロ・マダウ＝ディアツ
Production	Antonello MADAU-DIAZ
美術	川口直次
Set Design	KAWAGUCHI Naoji
衣裳	ピエール・ルチアーノ・カヴァッロツティ
Costume Design	Pier Luciano CAVALLOTTI
照明	奥畑康夫
Lighting Design	OKUHATA Yasuo
再演演出	田口道子
Rivival Director	TAGUCHI Michiko
舞台監督	斉藤美穂
Stage Manager	SAITO Miho
トスカ	キャサリン・ネーグルスタッド
Tosca	Catherine NAGLESTAD
カヴァラドッシ	ホルヘ・デ・レオン
Cavaradossi	Jorge de LEÓN
スカルピア	クラウディオ・スゲーラ
Scarpia	Claudio SGURA
アンジェロツティ	久保田真澄
Angelotti	KUBOTA Masumi
スポレッタ	今尾 滋
Spoletta	IMAO Shigeru
シャルローネ	大塚博章
Sciarrone	OTSUKA Hiroaki
堂 守	志村文彦
Il Sagrestano	SHIMURA Fumihiko
看 守	秋本 健
Carceriere	AKIMOTO Ken
羊飼 い	前川依子
Un Pastore	MAEKAWA Yoriko
合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合 唱	新国立劇場合唱団／びわ湖ホール声楽アンサンブル
Chorus	New National Theatre Chorus / BIWAKO HALL Vocal Ensemble
児童合唱	TOKYO FM 少年合唱団
Children Chorus	TOKYO FM Boys Choir
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra
芸術監督	飯守泰次郎
Artistic Director	IIMORI Taijiro

本公演は、びわ湖ホールとの提携により上演されます。

【びわ湖ホール公演】 2018 年 7 月 21 日(土)15:00／ 22 日(日)15:00

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール TEL 077-523-7136

予定上演時間:約 2 時間 55 分(休憩含む)

報道用資料

公演情報 WEB サイト <http://www.nntt.jac.go.jp/opera/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* **Z席 1,620 円**:Z席 42 席とZ【音のみ】席 4 席は、公演当日朝 10 時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスおよびセブン-イレブン、サークルK・サンクスの端末操作により全席先着販売します。1人1枚。電話予約不可。

* **当日学生割引(50%)**:公演当日残席がある場合、D席・Z席を除く全ての席種について 50%割引で販売。要学生証。電話予約不可。

* 新国立劇場では、ジュニア割引(中学生以下 20%)、高齢者割引(65 歳以上 5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)など各種割引サービスをご用意しています。

* 就学前のお子様のご同伴・ご入場はご遠慮ください。

* 7 月 12 日(木)は 3 階の一部と 4 階の C・D 席に学校団体が入る予定です。

新国立劇場 WEB サイト <http://www.nntt.jac.go.jp>

東京都渋谷区本町 1-1-1 京王新線新宿駅より 1 駅、初台駅直結。

報道用資料

★本演目はレパートリー(再演)公演です。過去の上演の記録写真を宣材としてご提供いたします。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】

2015年新国立劇場『トスカ』公演より 撮影:寺司正彦